チョウとの出会い：コウトウシロシタセセリ　　120128, 200405

Oct. 30, 2003：西表島

帰路，自然観察路の案内板が立つ広場から細い下り道をたどって展望台まで降りてみる．途中の林で滋賀の布藤さんがバンナ公園でねらっていたヤエヤマウラナミジャノメを採る．また，ヤマイモ科植物様の白い花をターゲットにすばしっこく飛翔するコウトウシロシタセセリもこの林で２頭採る．展望台には父親と幼い女の子２人の家族連れがいて，ちょうど帰ろうとするところで入れ違う形となる．上の広場に止めてあった四輪駆動の家族だろう．女の子達は「さようなら」を繰り返しつつ急坂の階段を登って帰って行く．展望台から仲間川を望む景色は天然のジャングルが広大な緑のジュウタンのごとくに展開しており，それはすばらしいながめだ．

Oct. 31, 1997：石垣島オモト林道

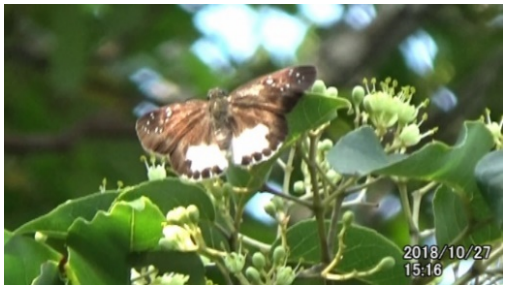
前日確認した 7:00 発のオモト行きバスに乗る。7:35 に終点の公民館前に着くまで乗客は皆無。石垣への帰りの過程で通学の生徒を拾うための早朝便なのだそうだ。天気はべたぐもり。もっともいやなのは強風が継続的に吹き荒れていること。雲が厚く天気がよくなる気配のない状況下オモト林道へと登る。9 月にヤエヤマムラサキがいた樹林にはルリウラナミシジミが翅表のルリ色を輝かせて敏捷に飛び回っており，しばらくここで時を過ごす。時折ジェット機のようにコウトウシロシタセセリが後翅のきれいな白紋の軌跡を樹陰内に描く。

Sep. 28, 2005：石垣島オモト林道

昨年 9 月 18 日にミカドアゲハの集団吸水を楽しんだ新設の公園内を今年もミカドアゲハが飛び交ってはいるが、集団吸水を形成するような適度の湿地帯はどこにもない。ときおり大きなツマベニチョウが高い位置を飛ぶ。1990 年代後半まで、ヤエヤマイチモンジやヤエヤマカラスアゲハが多かった峠越え部分は、アスファルト道路となって以降その姿が激減した印象だ。ヒカゲヘゴの葉っぱ上で日向ぼっこを始めたコウトウシロシタセセリにそっと近づいてカメラ撮影をする。人の気配に敏感なチョウなのでもっと迫りたいのをがまんし、適当な距離でフォーカスを合わせてシャッターを切る。

Oct. 27, 201：屋良部林道

林道沿いにカラスザンショウとハマセンダンの花が咲く場所では、アオスジアゲハ、ミカドアゲハ、ヤエヤマカラスアゲハ、クロアゲハが群れて吸蜜しているが、多くがどこかを破損した個体だ。裏面の鱗粉が薄れたタイワンアオバセセリやコウトウシロシタセセリもやってくる。コウトウシロシタセセリはすぐに翅を全開状態でペタリと広げてくれるので撮影のしがいがある。



Copyright© 2009- Soft House JUMP. All rights reserved.